

気候変動問題国際交渉における日本の「役割」について

国際環境経済研究所理事

東北大学特任教授

U3 イノベーションズ合同会社共同代表

竹内純子

【気候変動問題の国際交渉の構図】

● 気候変動問題はエネルギー・経済問題である

気候変動枠組み条約の採択から既に 30 年以上が経過し、世界はこの問題の解決に向けて議論を続けていますが、未だ大幅な排出削減には至っていません。それは、CO₂ はエネルギー利用の結果必然的に排出される、すなわち、**気候変動は環境問題ではなく、エネルギー問題であり経済問題であるという構造**に拠ります。

● イノベーションが不可欠

人類がこれまで利用してきた化石燃料は、エネルギー密度や可搬性・貯蔵性等においては、極めて優れたエネルギー源であり、**脱化石燃料と経済成長を持続的に両立させるには、化石燃料より安価で優れたエネルギーを人類が手にする必要があります**。しかし、人類はそうした技術をまだ手にしていないため、パリ協定においても、イノベーションが不可欠であると謳われています（第 10 条第 5 項）。**わが国が GX を進める意義は、世界の温室効果ガス排出量の 3% を占める日本の排出削減を進めるにとどまらず、世界全体の排出削減に貢献し、気候変動問題の解決と経済の安定・成長に資することにあります**。

● G7 唯一のアジアの一員としての発信

COP28 では、各国の目標（NDC）をさらに野心的なものに引き上げることや、2030 年の再エネ導入目標について議論される見込みです。

これまで、特に欧州が主導し、カーボンニュートラルに向かう道筋や手段を特定したり、いかなる蛇行や後退も許さないというような議論が散見されましたが、こうした議論は**各国の自主性を重んじることでようやく成立したパリ協定そのものを瓦解させかねません**。

わが国は、パリ協定の根本的思想となるプレッジ&レビュー方式を当初から主張してきました。G7 は、目標引き上げなどで先鋭的な動きを強めていますが、わが国は、**G7 中唯一のアジアの一員として、多様な道筋・手段を認め、現実的な気候変動対策の推進を主張することが求められています**。

【分野別投資戦略について】

カーボンニュートラルの達成という目標は共通ですが、**産業によって、技術の進展度合いや構造にも差があり、分野別に実態を把握し、投資戦略策定に向けた議論を始めていただいたことは、極めて大きな前進**だと考えます。この段階で申し上げられることは少ないものの、総論として3点申し上げたいと思います。

① 国際市場で受け入れられるためのルールメイキングと強みを生かした戦略

米国のインフレ抑制法（IRA）やEUの炭素国境調整メカニズム（CBAM）など、各国が脱炭素化を旗印とした産業政策や貿易への介入を導入し、**「グリーン貿易戦争」**の様相を呈していることから明らかなとおり、グリーン成長を巡る各国の政策競争は今後さらに加速すると考えられます。「国際市場で勝つ（普及する）」ためには、コストを含めた技術・ビジネスの競争力を高める努力は当然必要ですが、その技術・ビジネスが国際市場で受け入れられるために、**ルールメイキングの議論で負けないことが必要**です。政府にはこの点の重要性を認識いただき、**十分なヒューマンリソースを確保**し、対応していただきたいと思います。

また、カーボンニュートラルに向けて削減に貢献する技術に注目が集まりがちですが、**災害に対して脆弱な途上国を中心に、適応の分野への関心も高まっています**。わが国が多くの自然災害を経験し、防災や災害復興に関する知見・技術が極めて高いことは各国に認識されています。削減だけでなく、適応分野への目配りをお願いいたします。

② 効果の定量評価

GXは極めて息の長い取り組みであり、その間、国民がこの政策を支持し続けることが必要です。効果の定量評価が重要であることは前回指摘した通りですが、分野別投資戦略の策定・遂行にあたっては、**効果をできる限り定量的に把握**し、投資戦略の見直しを行っていただきたいと思います。

③ 潤沢・低廉・安定的な脱炭素電源を確保する電力政策

例えば鉄鋼産業も、大型革新電炉等への転換を経て、水素還元製鉄技術への移行を目指すとされているように、**GXの大前提が「潤沢・低廉・安定的な脱炭素電源の確保」**であることは、これまで一貫して申し上げている通りです。

わが国のカーボンプライシングの負担の多くが、発電の有償オークションによって賄われることが想定されますが、今後さらに電力価格が高騰することになれば、日本のGXは初手つまづくこととなります。

潤沢・低廉・安定的な脱炭素電源の確保に向けて、政府として電力政策の見直しに取り組んでいただくことを期待いたします。